

平成27年度 米子白鳳高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

米子白鳳高校は豊かな自然と歴史的遺跡に近接する立地に恵まれ、定時制課程（総合学科）と通信制課程（普通学科）を併設する学校として、その特性をいかした独自の学校教育を展開している。本校は「学ぶ意欲」と「心の優しさ」を大切に、設置課程の特徴をいかした教育活動を通して、社会で自立できる力を育成することにより「生徒の夢の実現を目指す」ことを中長期の目標としている。不登校傾向や特別な教育的支援を必要とする生徒が多い中、本年度の重点目標は「1. 基礎学力の向上」「2. 豊かな人間性の育成」「3. 進路指導の充実」「4. 地域、外部機関との連携」を掲げ、学校長のリーダーシップのもとに教職員の緊密な連携を通して、生徒と距離の近い学校教育が展開されている。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① さまざまな環境を有する生徒に対して、学力の向上を重点目標に置き、少人数の特性をいかしながら一人ひとりに向きあった丁寧な指導が継続されている。
- ② 郷土芸能部の活躍は地域文化の伝承のみならず、生徒の自己肯定感を高め、自信になっている。人との繋がりがコミュニケーション能力の育成にも役立っている。
- ③ 生徒一人ひとりの生育環境や現状を把握し、日々の変化を教職員間で情報共有しながら支援が進められており、必要に応じて外部の専門機関との連携が図られている。
- ④ 特別支援教育の取組について、中学校からの「個別的教育支援計画」等の引継が円滑にできるように保護者の同意を得るような様式を作成して個人情報の収集に努め、指導にいかしている。
- ⑤ 自己評価表における現状の表記について、否定的な表現ではなく、前向きな表現に改め、向上を図るよう、取組がなされている。
- ⑥ 「彼岸花の里づくりプロジェクト」や地域の清掃活動などに参加することにより、地域との交流に積極的に取り組み、地域の要望に応えるとともに体験学習を通して社会参加の意識を高めている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 平成23年度評価書にもあるように、社会で生きて働くための学力や生きる力の育成に必要な授業改革や指導法の工夫などを推進するための組織を校務分掌に位置づけて成果を上げることを望む。
- ② 特別支援教育の研修で得た内容について、授業にいかす取組をより一層進めていただきたい。
- ③ 生徒が自身の進路や人生を設計するための「キャリア教育の手引書」の作成を検討していただきたい。
- ④ グローバルな分野や事柄に関心を持つ生徒に対して、その機会の提供は必要であると考え。生徒の夢や可能性に着目し、その方面を伸ばすような取組に期待する。
- ⑤ 保護者との連携について、さまざまな困難な点があることは理解できるものの、企画力や発想力の発揮あるいは民間の分野の意見も参考にして、保護者の意見やニーズを把握し学校行事参加に繋げていただきたい。
- ⑥ 本校の恵まれた施設や設備を地域に開放することにより、域内の観光施設や多様な人材の活用に繋げていただきたい。